

1. 共通科目



授業科目	特別研究	時間割コード		90101	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	8(240)	必修	2通
担当教員	豊田 久美子・紙屋 克子・田口 豊恵・中川 晶・平 英美・久留島 美紀子・山本 明弘・井上 深幸・堀井 とよみ・三輪 眞知子・小島 賢子・高城 智圭・千葉 陽子・小谷 里砂				
授業目的・目標	<p>【目的】 専門科目の「看護の智探究課題演習」、「地域生活支援探究課題演習」で学修した研究過程および明らかになった研究疑問に基づき、一連の研究能力を培う。</p> <p>【目標】 1) 研究課題を明確化し、研究目的を設定できる。 2) 研究目的に応じた研究計画が立案できる。 3) 研究倫理委員会の承認得ることができる。 4) データの収集・分析ができる。 5) 結果の論文作成ができる。 6) 研究成果を発表できる。</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 修得した共通科目・総論・演習の学修を活かしながら、各領域の研究に即した自己の研究課題を設定し、一連の研究過程を進め、新たな智の生成に至る。</p> <p>【授業計画】 第1講～16講：研究計画発表で指摘、指導を受けた内容について修正し、研究計画書を確定する。 第17講～60講：データ収集の開始。データ収集をしつつ、ディスカッションを通して、分析および解釈をすすめる。 第61講～64講：中間発表 第65講～120講：論文の作成・成果の発表、論文審査、最終論文の作成</p>				
使用テキスト	特に定めない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	全研究過程への取り組み、資料、プレゼンテーション、論文などで総合的に評価する。				
学生へのメッセージ	研究過程を通して、主体的で能動的な学修を全教員で支援します。 知的的好奇心と探究力を手がかりに、暗黙知を形式知への旅を進めましょう。				

授業科目	看護研究特論	時間割コード		90201	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	必修	1前
担当教員	豊田 久美子 ・ 田口 豊恵				
授業目的・目標	<p>【目的】 社会および医療・看護の動向から看護研究を行う意義について理解し、看護実践科学に貢献するための原理および研究の進め方について学び、研究者として新たな知見を得るとともに臨床現場に還元できる実践的な研究能力を高める。</p> <p>【目標】 1) 看護研究の意義と役割について理解できる。 2) 看護研究のプロセスと進め方について理解できる。 3) 看護研究における倫理に関する現状と課題について理解できる。 4) 看護研究におけるクリティークの意義について理解できる。 5) 研究計画書の重要性と作成方法について理解できる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 社会および医療・看護の動向と看護研究の意義およびその役割、研究課題の設定と研究の進め方の概要、看護研究における倫理に関する現状と課題、研究プロセスと倫理面での遵守事項について知見を深める。研究疑問の絞り込み、文献検索、文献検討の方法、国内外の文献講読、クリティークを通して、研究計画書の重要性と作成について理解を深める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (豊田 久美子/7回) 第1講: 講義計画ガイダンス 社会および医療・看護の動向と看護研究 第2講: 看護研究の意義と役割 第3講: 看護実践科学に貢献するための原理 第4講: 看護研究における倫理に関する現状と課題① 第5講: 看護研究における倫理に関する現状と課題② 第6講: 研究疑問の絞り込みと看護的意義① 第7講: 研究疑問の絞り込みと看護的意義②</p> <p>(田口 豊恵/8回) 第8講: 国内の研究論文講読 第9講: 国外の研究論文講読 第10講: 文献検索の方法 第11講: 文献検討と文献レビュー 第12講: 研究論文のクリティーク① 第13講: 研究論文のクリティーク② 第14講: 研究計画書の重要性 第15講: 研究計画書の作成方法</p>				
使用テキスト	特に指定しない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	レポート50% プレゼンテーション50%				
学生へのメッセージ	研究の原理や進め方について理解し、臨床現場に還元できる実践的な研究能力を高めましょう。				



授業科目	看護研究方法	時間割コード		90202	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	必修	1前
担当教員	平 英美 ・ 山本 明弘 ・ 小谷 里砂				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 看護研究には多くの方法がある。授業では、研究デザインとしての量的研究と質的研究それぞれの特徴や方法について学ぶとともに、文献やデータのクリティークを通して、自己の研究テーマに関連した研究方法に対する理解を深めることを目標としている。</p> <p>【目標】 1) 看護研究における量的方法と質的方法のそれぞれの特徴を理解する。 2) 量的方法の考え方と統計的データの分析方法について知る。 3) 質的方法のリサーチ方法と分析手法を理解する。 4) 自分の研究テーマに適合的な研究方法にどのようなものがあるかを判断できる。</p>				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】 授業では、さまざまな先行研究を参照しながら、量的方法と質的方法のそれぞれについて理解を深めるとともに、両者の違いや対象に応じてどのように二つの方法を使い分けばよいのかについて論じる。 (オムニバス/全15回)</p> <p>【授業計画】 (平 英美/5回) 第1講:オリエンテーション: 研究における「方法」の重要性について 第2講:看護研究における量的方法と質的方法 第3講:量的方法と質的方法の比較: それぞれのメリットとデメリット 第4講:量的方法と質的方法の融合: 量化へ向かう質的方法について 第5講:フィールドリサーチの組み立てと量的方法・質的方法の使い分け</p> <p>(山本 明弘/5回) 第6講:量的研究:記述統計と推計統計 コホート研究とケース・コントロール研究指標の選定 第7講:量的研究:検定の種類と選択 検定の実施 第8講:量的研究:検定結果の解釈 効果量と検定 図表の選択 第9講:量的研究(文献研究):文献の選択 文献収集と整理 第10講:量的研究(事例研究):倫理的配慮 事例選定 実施手順</p> <p>(小谷 里砂/5回) 第11講:質的研究:質的研究の特徴とプロセス 第12講:質的研究:データ収集の種類と特徴 第13講:質的研究:データ分析の種類と特徴 第14講:質的研究:論文執筆やプレゼンテーションの方法 第15講:質的研究:質的研究論文のクリティーク</p>				
使用テキスト	各担当者から資料を配付する				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	提出物等平常点50% 最終レポート50%				
学生へのメッセージ					

授業科目	看護倫理特論	時間割コード		90203	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	必修	1前
担当教員	山岸 千恵				
授業目的・目標	<p>【目的】 看護実践の場での倫理課題を見出し、その課題を探究し看護倫理観を深める。また、チームで倫理的な課題を解決する際のリーダーシップを取れる能力を養う。</p> <p>【目標】 倫理学の基本を概観する。看護実践の場で起こる、医療のあり方の変遷を理解する。人権を尊重するということについて理解する。自己の死生観を明らかにし、看護実践の場での課題を考察する。チームで倫理的対話をし、学びあうことを実践する。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 看護倫理を哲学の系譜と医療技術の進歩から教授し、看護実践や看護が関わる地域社会、医療社会における倫理の必要性とその意味を考察する。看護の対象者と看護者自身の関係を、医療の場でどのように捉えていたか話し合い、人間関係としての看護倫理を考察する。人の生死を、医療倫理の観点から考察し、看護者としての役割を考察する。</p> <p>【授業計画】 第1講:倫理的問題の在りか(義務論と功利主義) 第2講:倫理的問題の在りか(実存主義) 第3講:倫理的問題の在りか(正義論と徳理論) 第4講:生命の始まりと終わり 第5講:生命の始まりに関わる医療技術と看護倫理 第6講:生命の終わりに関わる医療と看護倫理 第7講:看護の対象者の人権 第8講:社会で生活する人としての看護者 第9講:世代間の倫理 第10講:看護実践の場での倫理課題の検討1 第11講:看護実践の場での倫理課題の検討2 第12講:看護実践の場での倫理課題の検討3 第13講:看護実践の場での倫理課題の検討4 第14講:看護実践の場での倫理教育の現状と課題 第15講:看護研究の倫理</p>				
使用テキスト					
参考図書	<p>①グラディス L.ハステッド ジェームズH.ハステッド 藤村龍子 樽井正義監訳 臨床実践のための看護倫理 医学書院 2009年 ②徳永哲也 初めて学ぶ生命・環境倫理 「生命圏の倫理学」を求めて ナカニシヤ出版 2003年</p>				
成績評価基準	出席及びグループワーク参加度10% レポート・発表評価 30% 定期試験 60%				
学生へのメッセージ	自分で考え抜くことができるように、論理的な思考能力を身に付けてください。				



授業科目	看護理論	時間割コード		90204	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	豊田 久美子				
授業目的・目標	<p>【目的】 看護理論を概観し、自己の看護実践を振り返り、理論との照合を通して、看護理論の活用・開発、実践・研究への適用について学び、看護の本質であり様々な看護実践に通徹する看護理論について深める。</p> <p>【目標】 1)看護現象と看護理論との関連を考察することができる。 2)看護理論(大理論・中範囲理論・小範囲理論)についての概要が理解ができる。 3)自己の看護実践を振り返り、理論との照合を通して、看護理論の活用・開発、実践・研究への適用について説明できる。 4)看護研究へ看護理論をどのように活かすかことができるかについて、考察することができる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 看護は実践の科学であり、看護理論は日々の細々した看護実践活動を帰納法によって開発・創出されたものである。地域包括ケアの進展に伴い、他職種連携・看護連携が必要になる中、看護の専門性の発揮がいっそう求められており、‘看護とは何か’の省察はきわめて重要である。看護理論を概観し、自己の看護実践を振り返り、理論との照合を通して、看護理論の活用・開発、実践・研究への適用について学び、看護の本質であり様々な看護実践に通徹する看護理論について考究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：看護理論の歴史的概観 第2講：看護現象と看護理論の省察 第3講：実践—研究—理論の円環関係と看護研究の重要性 第4講：看護理論の理解1(大理論の理解1) 第5講：看護理論の理解2(大理論の理解2) 第6講：看護理論の理解3(中範囲理論1) 第7講：看護理論の理解4(中範囲理論2) 第8講：看護理論の理解5(小範囲理論1) 第9～14講：自己の看護実践を振り返り、理論との照合を通して、看護理論の活用・開発、実践・研究への適用についてまとめて発表し、全体で討議する。 第15講：看護理論と看護実践および看護研究への活用と限界、開発</p>				
使用テキスト	指定なし				
参考図書	随時、紹介する				
成績評価基準	課題の実施と発表40% ディスカッションへの参加度30% レポート40%				
学生へのメッセージ	暗黙知を形式知へとつなぐために、自己の体験と思索を最大限に活用しましょう。				

授業科目	看護管理論	時間割コード		90205	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後集中
担当教員	任 和子				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 地域包括ケアシステムを推進するにあたって、多職種協働連携及びチーム医療における看護管理に関する諸理論や技法を修得する。 看護専門職として社会の期待に応えることができるために、学びを促す組織づくりの諸理論及び技法を修得する。</p> <p>【目標】 1) 看護管理の基盤となる理論及び技法について説明できる。 2) 多職種連携及びチーム医療における看護の専門性について説明できる。 3) 多職種連携及びチーム医療において看護の専門性を具現化する方法について説明できる。 4) 学びを促す組織づくりの理論及び技法について説明できる。</p>				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】 地域包括ケアシステムが推進されている中で、看護専門職として社会の期待に応えるために必要な看護管理に関する知識や理論および互いに学び成長できる組織づくりの具体的な技法について学修する。</p> <p>【授業計画】 第1講: ガイダンス 第2講: 看護管理の定義と歴史の変遷 第3講: 組織論①(組織とは・組織変革・開発) 第4講: 組織論②(地域包括ケアシステムにおける多職種連携及びチーム医療) 第5講: 看護の質保証と評価 第6講: 看護の質改善 第7講: 看護専門職の自律性と責務 第8講: リーダーシップ論(メンバーシップを含む) 第9講: 組織における意思決定と交渉力(データ活用も含む) 第10講: 学びを促す組織づくり①学習のメカニズム・学習モデル 第11講: 学びを促す組織づくり②動機づけ理論 第12講: 学びを促す組織づくり③学習環境デザイン 第13講: 学びを促す組織づくり④具体的技法(ティーチング・コーチング・フィードバック) 第14講: 専門職業人としてのキャリア開発 第15講: 看護管理における自己の課題の明確化</p>				
使用 テキスト	指定なし				
参考図書					
成績評価 基準	出席とディスカッションへの参加度40% 課題の実施と提出: 発表20% レポート40%				
学生への メッセージ					



授業科目	看護政策論	時間割コード		90206	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後集中
担当教員	勝又 浜子 ・ 堀井 とよみ				
授業目的・目標	<p>【目的】 政策提言のできる看護職としての能力を修得する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国・都道府県・市町村の看護政策と策定過程が理解できる。 2) 看護政策の課題が考察できる。 3) 地域における健康・医療・福祉政策の策定過程が理解でき、看護職の役割が理解できる。 4) 保健・医療・福祉政策の新たな政策課題に対して解決策を考えることができる。 5) 解決策を政策として考えることができる。 				
授業概要・計画	<p>【授業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国、都道府県、市町村における保健・医療・福祉ニーズに対応する看護政策の在り方とその策定過程学び、看護の課題を探究する。 2) 保健医療福祉政策の決定過程に関わってきた看護職の役割をを理解し、保健医療福祉政策の課題解決方法や政策決定過程を探究する。 (オムニバス方式/全15回) <p>【授業計画】 (勝又 浜子/7回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1講: 我が国における看護政策の動向と医療政策 第2講: 我が国の看護政策の決定過程 第3講: 看護現場に影響を及ぼす法令 第4講: 診療報酬改定への看護職の関与 第5講: 日本看護協会と看護政策 第6講: 保健・医療・福祉政策の決定に看護職が果たしてきた役割 第7講: グループディスカッション① (テーマ: 自組織を通して考える看護政策上の課題と解決策) <p>(堀井 とよみ/8回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 第8講: 発表とレポート提出 第9講: 地域の保健・医療・福祉政策の課題と政策化① 第10講: 地域の保健・医療・福祉政策の課題と政策化② 第11講: グループディスカッション① (テーマ: 看護職としてかかわる健康課題とその解決策) 第12講: グループディスカッション② (テーマ: 看護職としてかかわる健康課題とその解決策) 第13講: グループディスカッション③(テーマ: 解決策の政策化) 第14講: 発表とグループディスカッション 第15講: 看護政策のまとめ、レポート提出 				
使用テキスト	適宜指定する				
参考図書	適宜指定する				
成績評価基準	レポート80% ディスカッション参加20%				
学生へのメッセージ					

授業科目	地域包括ケアシステム論	時間割コード		90207	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	必修	1前
担当教員	井上 深幸 ・ 三輪 眞知子 ・ 堀井 とよみ				
授業目的・目標	<p>【目的】 地域包括ケアシステム構築と推進の中心的役割を担うことができる看護職としての能力を育成する。</p> <p>【目標】 1) 我が国の保健医療福祉政策の現状を理解する。 2) 保健医療福祉政策の課題が探究できる。 3) 課題解決のための地域包括ケアシステムを考究できる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 1) 母子、障害者、高齢者に関する保健医療福祉政策を理解する。 2) 母子・障害者政策における保健医療福祉の連携や地域包括ケアシステムの構築課程を理解し、現在の地域包括ケアシステムの課題を探究する。 3) 課題解決のための地域マネジメントについて考究する。 4) 高齢者政策における保健医療福祉の連携や地域包括ケアシステムの構築課程を学び、現在の地域包括ケアシステムの課題を探究する。 5) 課題解決のための地域マネジメントと政策提言を探究する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (井上 深幸/5回) 第1講: 母子に関する保健医療福祉政策の現状と課題 第2講: 障害者に関する保健医療福祉政策の現状と課題 第3講: 高齢者に関する保健医療福祉政策の現状と課題 第4講: グループディスカッション (テーマ 保健医療福祉の連携) 第5講: 発表とディスカッション、レポート</p> <p>(三輪 眞知子/5回) 第6講: 子育て世代の地域包括ケアシステムの現状と課題 第7講: 障害者地域包括ケアシステムの現状と課題 第8講: グループディスカッション ① (テーマ 子育て世代・障害者の地域包括ケアシステムで看護職の果たす役割) 第9講: グループディスカッション ② 第10講: 発表とグループディスカッション、レポート</p> <p>(堀井 とよみ/5回) 第11講: 高齢者地域包括ケアシステムの現状と課題 第12講: グループディスカッション ① (テーマ 高齢者の地域包括ケアシステムにおいて看護職の果たす役割) 第13講: グループディスカッション ② (テーマ 中心的役割を果たすための看護職の力量) 第14講: 発表とディスカッション 第15講: 地域包括ケアシステムのまとめ レポート</p>				
使用テキスト	適宜指定する				
参考図書	適宜指定する				
成績評価基準	レポート80% ディスカッション参加20%				
学生へのメッセージ					



授業科目	家族看護特論	時間割コード		90208	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前集中
担当教員	山崎 あけみ ・ 千葉 陽子				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 看護学の観点から、実践・研究・理論的に一単位としての家族について考える。</p> <p>【目標】 1) 家族看護および家族に関連する国内外の研究の動向や最新の知見を概観しつつ、研究テーマに応じた家族理論・研究方法について考究できる。 2) 高度実践者として、事例(ケース)に対して家族を単位とした対象理解と支援技法を獲得する。</p>				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】 家族看護学について基盤となる諸理論や研究の概要・方法について理解を深め、ケーススタディ等を通して健康上の課題を有する家族の関係を理論的に査定し、介入方法について考究する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (山崎 あけみ/10回 第1講～9講、第15講) (千葉 陽子/5回 第10～14講)</p> <p>第1講: 家族看護学研究の動向と基本的な考え方 第2講: 家族に関連する理論 第3講: 家族アセスメントの技法 第4講: 個人インタビューを通じた 家族情報の収集技法 第5講: family interview・dyadic interviewの技法 第6講: 家族機能尺度・測定・分析における課題 第7講: 介入研究 対象者選定と評価の測定における課題 第8講: 家族を対象とした質的研究クリティーク① 第9講: 家族を対象とした仮説検証型研究クリティーク② 第10講: 家族看護のケーススタディ 第11講: 家族看護のケーススタディ 第12講: 家族像の形成と看護過程 第13講: 家族像の形成と看護過程 第14講: 家族像の形成と看護過程 第15講: 家族を対象とした研究・実践における留意点 まとめ・質疑</p>				
使用 テキスト	山崎あけみ・原礼子(2015) 家族看護学 改訂2版 南江堂				
参考図書	kaakinen, JR et al. (2015) Family Health Care Nursing. 5th ed. FA. Davis. Whall AL & Fawcett J(1991) Family Theory Development in Nursing. FA. Davis. 野々山久也(2009) 論点ハンドブック 家族社会学 世界思想社 日本家族研究・家族療法学会(2013) 家族療法テキストブック 金剛出版				
成績評価 基準	講義への出席・討論への参加20% レポート・プレゼンテーション等の課題80%				
学生への メッセージ	家族を看護の対象として、実践者・研究者・教育者として介入できるようになるため考えてまいりましょう				

授業科目	医療コミュニケーション特論	時間割コード		90209	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	平 英美 ・ 出石 万希子				
授業目的・目標	<p>【目的】 近年、臨床において医療コミュニケーションの重要性が認識されるようになった背景には、患者の権利を尊重した患者中心の医療の進展がある。とくに看護においては、コミュニケーション自体が看護技術の一部と見なされ関心が高まっている。本授業は、このような医療者-患者関係の変化に対応しつつ、看護師が臨床現場において患者との良好なコミュニケーションを遂行するためにはどのようにすればよいのかを理論的かつ実践的に探究することを目的としている。</p> <p>【目標】 1) 医療においてコミュニケーションが重視されるようになった歴史社会的背景についての認識と理解を深める。 2) コミュニケーションの分析ツールであるRIASと会話分析を使いこなすことができる。 3) 他のコミュニケーションと比較した看護コミュニケーションの特徴について理解する。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 まず、わが国における患者中心の医療の展開について、とりわけその中心概念であるインフォームドコンセントの実態を、看護記録開示やがん告知と看護師の関わりなどの事例を通して具体的に検討する。次に、コミュニケーションを分析する代表的な理論・分析方法に習熟するために、量的方法ではRIASを、質的方法では会話分析を主に取りあげる。本授業では、SPの利用や簡単なフィールドリサーチを行うことで院生自身が患者とのコミュニケーションを自己分析するワークを取り入れている。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (平 英美/10回 第1講、2講 第7講、8講、第10講～15講) (出石 万希子/5回 第3講～6講、第9講)</p> <p>第1講：オリエンテーション：医療におけるコミュニケーションの研究の重要性：背景としての患者中心の医療の進展について 第2講：コミュニケーションデータ作成方法とトランスクリプトの方法 第3講：RIASを用いた医療コミュニケーションの量的分析について：RIASの特徴とコーディングの考え方 第4講：ワーク①：データをコーディングしてみる 第5講：ワーク②：コーディング後の処理の仕方について 統計の利用法 第6講：RIASから見た看護コミュニケーションの特徴：医師のコミュニケーションあるいは医療以外のコミュニケーションと比較して 第7講：コミュニケーション研究の理論的動向：談話分析(Discourse Analysis) と会話分析(Conversation Analysis) の違いについて 第8講：会話分析の基本概念と医療コミュニケーション研究への応用 第9講：フィールドリサーチに向けて 第10講：ワーク③：会話分析を試みる その1 第11講：ワーク④：会話分析を試みる その2 第12講：模擬患者を使ったロールプレイ 第13講：ワーク⑤：各自のデータ解析の指導 第14講：ワーク⑥：各自のデータ解析の指導 第15講：まとめ プレゼンテーションー各自の自己分析を発表する。</p>				
使用テキスト	授業時に資料として配付する。				
参考図書	<p>① 石崎雅人・野呂幾久子監修『これからの医療コミュニケーションに向けて』篠原出版新社 ② 阿部恵子・石川ひろの・野呂幾久子『医療コミュニケーション分析の方法』三恵社 ③ その他、適宜紹介する。</p>				
成績評価基準	提出物および平常点50% レポート試験50%				
学生へのメッセージ					

2. 看護の智探究領域



授業科目	看護の智探究総論	時間割コード		90301	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択 (領域必修)	1前
担当教員	豊田 久美子 ・ 紙屋 克子 ・ 田口 豊恵 ・ 中川 晶				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 看護の智探究領域において、智の抽出、形式智としての表現、看護実践への適用について、看護技術の智、意識障害をはじめ、心身の障がいをする看護の対象者へのケアの智、生命の危機的状態にある人とその家族へのケアの智、‘当事者の語り・物語’の持つ智から考究する。</p> <p>【目標】 1) 自己の臨床場面を省察できる。 2) 智の探究方法について考察する。</p>				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】 様々な看護現象には、どのような智が潜んでいるのか、その智はどのような方法で抽出して看護の形式智として表現し、看護実践に生かしていくのかについて考究する。 さらに、それぞれの臨床経験にもとづいて意見交換をする中で自己の臨床場面を省察し、看護の智探究領域の幅広い視点から自己の問題意識を整理し、明確化していく機会とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(豊田 久美子/4回 第1講～4講) 第1講: 看護実践に潜む知について 第2講: 看護技術の一つである足浴ケアの科学的根拠および臨床における汎用性 第3講: 臨床で用いる看護技術の効果、適応、エビデンスの検証法と重要性 第4講: 高度看護実践を支える看護技術創造への智を探究についての考察</p> <p>(紙屋克子/3回 第5講～7講) 第5講: 意識障害を有する看護の対象者へのケアについての理論、科学的根拠 第6講: 心身の障がいをする看護の対象者へのケアについての理論、科学的根拠 第7講: 看護の持つ生活行動へのアプローチと健康回復への智を探究についての考察</p> <p>(田口豊恵/4回 第8講～11講) 第8講: 生命の危機状態にある患者、家族の反応に対する臨床場面の省察 第9講: 生命の危機状態にある患者、家族に対する問題意識の明確化 第10講: 生命の危機状態にある患者、家族に対する研究課題の明確化 第11講: 生命の危機状態にある患者、家族に対する智の探究方法の考察</p> <p>(中川 晶/4回 第12講～15講) 第12講: 臨床ナラティブと理論と方法 第13講: 臨床ナラティブの活用 第14講: ‘当事者の語り・物語’の持つ意味 第15講: 患者・家族にとって意味ある医療、看護を提供するための臨床ナラティブへの智の探究について考察</p>				
使用 テキスト	特に設定しない				
参考図書	随時紹介する				
成績評価 基準	課題・討議50% レポート50%評価				
学生への メッセージ					

授業科目	看護技術特論	時間割コード		90302	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	豊田 久美子				
授業目的 目標	<p>【目的】 看護技術の歴史的変遷を理解するとともに、あらゆる看護実践に用いられる看護技術の構成要素を明らかにし、看護実践と科学的根拠の現状について考察する。また、看護の独自性と専門性の構築にとって重要な看護技術の実証的、開発的研究の基礎を培う。</p> <p>【目標】 看護技術学に関連する国内外の関連文献、ならびに関連領域の研究をクリティークする力、研究方法を養い、自己の研究課題の焦点化と研究デザインの基礎を培う。</p>				
授業概要 計画	<p>【授業概要】 専門的で適切な看護を実践するための基盤となる看護技術について、対象の理解、看護介入方法、看護実践システムの現状について考察し、エビデンスの検証方法、研究知見とその活用について教授する。さらに、看護介入方法に影響する社会的要因について患者・医療者関係、感情労働などの諸理論をもとに研究への適応について考究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：看護技術の歴史的概観 第2講：看護技術の構成要素とは 第3講：文献から明らかにする看護技術の科学的根拠1 第4講：文献から明らかにする看護技術の科学的根拠2 第5講：文献から明らかにする看護技術の科学的根拠3 第6講：看護技術のエビデンスの検証方法 第7講：看護介入方法の検証、開発 第8講：(準)実験研究、事例研究、影響要因調査方法 第9～14講：日頃の看護実践に用いる看護技術を取り上げて、適用基準、介入方法、効果、エビデンスなど文献などで実践場面(事例)における看護技術のについて考察する。 第15講：看護の専門性と看護技術の開発</p>				
使用 テキスト	指定なし				
参考図書	随時、紹介する				
成績評価 基準	出席とディスカッションへの参加度40% 課題の実施と提出：発表20% レポート40%				
学生への メッセージ	看護実践を省察し、看護の‘わざ’の奥深さを探究しましょう！				



授業科目	生活行動回復看護特論	時間割コード		90303	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	紙屋 克子				
講義目的・目標	<p>【目的】 看護実践者・教育者として身を置く活動環境の中から、解決ならびに探求すべき課題を発見できる能力を獲得するために学際的視点から、生活行動回復に活用できる理論や実践方法について教授する。</p> <p>【目標】 1) 研究課題についての論点を整理することができる。 2) 研究課題についての文献検討ができる。 3) 自身の研究について適切なプレゼンができると共に他の研究者やゲストスピーカーとディスカッションできる能力を獲得する。</p>				
講義概要・計画	<p>【授業概要】 意識障害をはじめ心身の障がいをもつ看護の対象者を人格ある存在として認識し、回復困難と評価された事例を通して援助方法とその成果について検討し、看護実践の効果を検証する。</p> <p>【授業計画】 第1講:オリエンテーション 大学院修士課程での研究テーマについて 第2講:看護実践と研究に関連した過去の文献を視聴覚教材を用いて、自己の経験と関連させながら検討する 第3講:同上内容 第4講:レナードの朝、NHKドキュメンタリー 植物人間回復への挑戦、高瀬舟、恍惚の人などを例に相互討論 第5講:同上内容 第6講:意識障害事例の具体的実践提示 第7講:意識障害看護の変遷 (医療の進歩と看護理論との関係) 第8講:意識障害看護の変遷 (日本の先進的取り組み) 第9講:意識障害看護:海外の取り組み 第10講:生活行動回復看護に必要な理論と技術:Nursing Biomechanics 第11講:生活行動回復看護に必要な新しい概念:生活の予後診断 第12講:意識障害看護の体験者をゲストスピーカー(母親と患者自身)として迎え、生活行動回復看護について討論する 第13講:意識障害看護の体験者をゲストスピーカー(看護者)として迎え、生活行動回復看護の課題について討論する 第14講:プレゼンテーション 第15講:まとめ</p>				
使用テキスト	適宜提示する				
参考図書	<p>①筋肉の名前としくみ事典 肥田岳彦 山田敬喜 監修 成美堂出版 1,500円+税 ②クリニカルマッサージ 改訂版 DVD付 大谷 素明 監訳 医道の日本社 ③ナーシングバイオメカニクスに基づく自立のための生活支援技術 紙屋克子 監修・著 ナーシングサイエンスアカデミー社 ④身体調整のための看護エクササイズ 紙屋克子 監修・著 ナーシングサイエンスアカデミー社</p>				
成績評価基準	討論への参加態度20% レポート50% プレゼンテーション30%				
学生へのメッセージ	看護の諸事実に科学的視点から迫り、問題や課題を明らかにし、解決のプロセスを研究活動へと自ら進む意気込みで参加してください。				

授業科目	クリティカルケア特論	時間割コード		90304	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2 (30)	選択	1後
担当教員	田口 豊恵				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 重篤な疾患や外傷、生体侵襲の大きい手術などによって生命危機状態にある重症患者とその家族に対し、生命の維持、生命への寄り添いと尊厳を護り、強みを引き出す智を探求する。クリティカルケア看護の基盤となる概念・理論、睡眠学や時間生物学に基づくサーカディアンリズムの調整、生体侵襲学、代謝・病態生理学、危機理論、フィジカルアセスメントについても学び、多角的かつ全人的な視点を培う。</p> <p>【目標】 1)生命維持に直接的なかかわりをもつ専門知識や看護技術について理解できる。 2)生死にかかわる問題に対応できる高い倫理観を持つ必要性について理解できる。 3)海外のクリティカルケア看護の動向について理解できる。 4)クリティカルケアの場の見学を通して、生命危機状態にある患者や家族への看護について考究する。</p>				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】 生命危機状態にある重症患者とその家族に対し、生命の維持、生命への寄り添いと尊厳を護り、強みを引き出すための智について講義や演習、海外文献の講読、我国のクリティカルケアの場の見学を通して探求する。</p> <p>【授業計画】 第1講:講義計画ガイダンス クリティカルケア看護とは 第2講:患者の特性と看護師の能力:AACN synergy Model(相乗作用モデル) 第3講:患者・家族の反応:危機理論 第4講:チーム医療とコミュニケーション 第5講:モニタリングとアセスメント 第6講:呼吸管理と看護 第7講:循環管理と看護 第8講:栄養・代謝管理と看護 第9講:クリティカルな状態における日常生活援助 第10講:サーカディアンリズム調整によるせん妄予防の看護 第11講:二次救命処置(ALS)と看護 第12講:海外におけるクリティカルケアの動向 第13講:クリティカルケアの場の見学① 第14講:クリティカルケアの場の見学② 第15講:クリティカルケア看護の質向上をめざして</p>				
使用 テキスト	特に指定しない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価 基準	レポート70% プレゼンテーション30%				
学生への メッセージ	超高齢多死社会を迎える我国では地域包括ケアの充実が求められています。このような中で、急性期における適切なケアの提供は生命維持のみならず患者のQOLを高めることにつながります。講義・演習・臨地の見学を通してクリティカルケアの強みを引き出す智を探求しましょう！				



授業科目	臨床ナラティブ特論	時間割コード		90305	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	中川 晶				
授業目的・目標	【目的】 ナラティブ・アプローチについての基本概念の理解を深める。 【目標】 1) 病者の「病いの語り」を聴き取ることが出来る。 2) カウンセリングとナラティブ・アプローチの違いを説明できる。 3) ナラティブ・アプローチの現在の研究の動向を追跡できる。				
授業概要・計画	【授業概要】 医療、とりわけ看護領域において、患者及び家族の語りから看護実践を構築することが重要である。よって、臨床ナラティブの基本的概念を学修するとともに、今後の活用について考究する。 【授業計画】 第1講: ナラティブ・アプローチとは 第2講: カウンセリングとナラティブの違い。 第3講: 医療とナラティブ 第4講: 医療人類学とナラティブ・アプローチ 第5講: 臨床の言葉 第6講: ナラティブを引き出す質問法1 第7講: ナラティブを引き出す質問法2 第8講: ナラティブを引き出す質問法3 第9講: 病者の物語の評価法1 第10講: 病者の物語の評価法2 第11講: 病者の物語の評価法3 第12講: 病者の行動変容の促進としてのナラティブ介入法1 第13講: 病者の行動変容の促進としてのナラティブ介入法2 第14講: パラダイム・シフトとナラティブ・アプローチ 第15講: まとめ: 医療と心理学の統合				
使用テキスト	なし * 毎回授業のときにプリント配布				
参考図書	「講義と演習で学ぶ行動科学」日本保健医療行動科学会				
成績評価基準	レポート50% 討議への参加50%				
学生へのメッセージ					

授業科目	看護の智探究課題演習	時間割コード		90306	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	2(60)	選択 (領域必修)	1後
担当教員	豊田 久美子・紙屋 克子・田口 豊恵・中川 晶・平 英美・久留島 美紀子				
授業目的・目標	<p>【目的】 臨床現場における看護の智探究に関する課題と展望を明確にするとともに、研究過程の演習を通して、基本的な研究展開方法を習得し自己の研究に生かすことが出来る。</p> <p>【目標】 1)グループ演習を通して多角的な意見や助言、指導を得、課題に対する研究の展開方法を学習できる。 2)得られた意見、助言、指導を自身の研究に有効に活用できる。</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 看護の智探究領域専攻の学生を支援する領域別演習であり、本領域を担当する全教員、同領域専攻の全学生の参加によって対話、発表、討論形式で進める。学生の問題意識に基づき、国内外の論文のクリティーク、研究疑問の絞込み、研究計画を立案する基礎能力を養う。 また、臨床現場における看護の智探究に関する課題と展望を明確にする。 (共同/全30回)</p> <p>【授業計画】 第1～4講:課題設定、文献レビュー、研究計画の検討 第5～8講:研究計画書作成、修正 第9～14講:課題に対する調査 第15～18講:調査の実施 第19～22講:データの分析 第23～26講:結果の考察 第27～28講:プレゼンテーション 第29～30講:まとめ、概要発表</p>				
使用テキスト	特に定めない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	発表資料60% プレゼンテーション力40%				
学生へのメッセージ	研究過程を通して、主体的で能動的な学修参加を期待します。				

3. 地域生活支援探究領域



授業科目	地域生活支援探究総論	時間割コード		90401	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択 (領域必修)	1前
担当教員	山本 明弘 ・ 井上 深幸 ・ 三輪 眞知子 ・ 千葉 陽子 ・ 小谷 里砂				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 あらゆる健康段階の人々が、地域でQOLの高い生活を維持できるような支援のあり方について、発達段階および精神保健医療分野の課題などから考究する。</p> <p>【目標】 1) 地域で生活する人の多様な健康生活の課題を理解する。 2) 課題解決と看護職の役割、あり方について考察する。</p>				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】 地域で生活する人々の現代社会における多様な健康生活の課題と、それに対する支援について考究する。さらに、地域包括ケアシステムの進展の中で、地域生活支援探究領域の幅広い視点から自己の問題意識を整理し、明確化していく機会とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(山本 明弘/3回 第1講～3講) 第1講: 現代社会が生み出す多様な心の健康問題 第2講: 精神科病院における退院促進支援事業の現状と課題 第3講: 精神科訪問看護、その他在宅支活動の現状と課題</p> <p>(井上 深幸/3回 第4講～6講) 第4講: 高齢期の健康生活とコミュニティケア 第5講: 地域包括ケアシステムとケアマネジメント 第6講: 多職種との連携・協働における看護の機能と役割</p> <p>(三輪 眞知子/3回 第7講～9講) 第7講 地域の人々の健康づくりを進めるためのわが国及び海外の政策 第8講 ヘルスプロモーションの理念と地域包括ケアシステム 第9講 地域包括ケアシステム構築における公衆衛生看護の機能と役割</p> <p>(千葉 陽子/3回 第10講～12講) 第10講 思春期男女の生活とリプロダクティブ・ヘルス / ライツ 第11講 性成熟期・更年期男女の生活とリプロダクティブ・ヘルス / ライツ 第12講 生殖補助医療を受けるカップルの生活とリプロダクティブ・ヘルス / ライツ</p> <p>(小谷 里砂/3回 第13講～15講) 第13講: EBM・EBN / エビデンスとは 第14講: エビデンスの評価方法 第15講: エビデンスの活用方法と活用例</p>				
使用 テキスト	特に使用しない				
参考図書	随時紹介する				
成績評価 基準	課題・討議50%、レポート50%評価				
学生への メッセージ					

授業科目	精神地域生活支援特論	時間割コード		90402	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2 (30)	選択	1前
担当教員	山本 明弘				
授業目的・目標	<p>【目的】 精神の障害とは何かを、社会・心理的視点及び医学的知見の両面から理解し、医療専門職及び社会福祉専門職等の連携による、入院から地域・在宅生活までの地域包括ケアシステムに主体的貢献ができる、幅広い知識を有する看護職育成を目的とする。</p> <p>【目標】 明治期以降の歴史的文献及び行政統計資料に基づき、精神障害者処遇の歴史的経緯を検証し、そこから、今後の精神障害者への社会的支援のあり方を考える。また、精神療法、社会療法、薬物療法等の治療法発展の経緯、及びその心理学的また生物学的メカニズムの理解を通じて精神病態の理解を深める。これらの学習を統合し、「精神障害」を生み出す多様な要因を理解し、それに対する看護介入について学ぶ。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 精神の障害とは何かを、社会・心理的視点及び医学的知見の両面から理解し、精神障害者の包括的支援のあり方及びそこに関わる看護者の役割を明らかにする。</p> <p>【授業計画】 第1講：精神の「障害」とは何か、それを生み出す、社会・心理、生物学的要因の理解 精神科診断基準の意義と課題 第2講：精神科医療の歴史的変遷 精神看護と精神科看護 第3講：精神病患者監護法及び精神病院法制定の社会的背景と条文解釈 精神病患者監護法による「監置」制度の歴史的資料に基づく検証 第4講：戦前の地方統計資料に基づく「精神病患者」処遇の検証 第5講：戦前の「精神病患者」民間施設、京都岩倉村保養所の実情と今日的評価 第6講：精神衛生法の条文解釈及び精神保健法、精神保健福祉法改定への経緯 第7講：精神療法の適用及び効果 第8講：向精神薬の作用及び有害作用メカニズムの理解と看護 第9講：精神疾患の病態理解及び精神科看護の実際 (1) 第10講：精神疾患の病態理解及び精神科看護の実際 (2) 第11講：様々な社会資源の機能及び連携の意義 第12講：退院促進支援及び地域・在宅生活支援の実際と看護職の役割 第13講：精神看護に関する最新の英文雑誌記事または論文の抄読 第14講：精神障害者支援をテーマとした学生によるディスカッション及び施策提言 第15講：全講義のまとめ</p>				
使用テキスト	テキストは指定しない。配布資料を用いて講義を進める。				
参考図書	岡田靖雄 (2002). 日本精神科医療史. 東京. 医学書院. 姫井昭男 (2014). 精神科の薬がわかる本 (第3版). 東京. 医学書院.				
成績評価基準	課題レポート50% 最終試験評価50%				
学生へのメッセージ	講義では、適宜ディスカッションを交えます。精神の「障害」とは何か、また、それを生み出す要因は何であるのかを、様々な視点から考え、掘り下げてください。常に問題意識を持ち、疑問に思うことは、積極的に意見を述べるようにしてください。				



授業科目	母子地域生活支援特論	時間割コード		90403	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	千葉 陽子				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 地域で生活する母子やその家族を取り巻く状況とそれに係る制度、諸課題を理解し、必要とされる支援を探求する。</p> <p>【目標】 1) わが国と外国の母子に関する状況、制度について述べるができる。 2) 母子に係る問題についてチームで倫理的対話をし、学びあうことを実践する。 3) 高度実践者として、事例(ケース)に対して母子への支援技法を獲得する。</p>				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】 少子化が進む中、地域で生活する母子やその家族を取り巻く制度や支援を多方面から理解するとともに、これらの対象が経験している諸課題について洞察する。そして、多くのものが妊娠・出産・子育てを肯定的体験としてとらえ、子どもが健やかに成長発達できる社会の構築を目指して、看護職としてできる支援を探求する。</p> <p>【授業計画】 第1講: わが国の少子化の現状と課題 第2講: 母子保健指標および政策の歴史的変遷 第3講: 母子保健政策と支援の現状と課題 第4講: 妊娠中の女性と家族の地域・家庭での生活と健康 第5講: 出産の現状と課題 第6講: 出産直後の母子と家族の地域・家庭での生活と健康 第7講: 産後の母子と家族の地域・家庭での生活と健康 第8講: 子育ての現状と子育て支援政策 第9講: 女性の就労と妊娠・出産・育児—産業保健 第10講: ハイリスク母子の地域・家庭での生活と支援 第11講: 諸外国のマタニティ・子育て支援政策: グループワーク 第12講: 諸外国のマタニティ・子育て支援政策: 発表・討論 第13講: わが国の地域におけるマタニティ・子育て支援における課題: グループワーク 第14講: わが国の地域におけるマタニティ・子育て支援における課題: 発表・討論 第15講: まとめ</p>				
使用 テキスト	特になし				
参考図書	適宜、配布および紹介する				
成績評価 基準	授業への参加度20% グループワーク30% レポート50%				
学生への メッセージ	わが国や諸外国の妊娠・出産・子育ての現状を意欲的に調べ、課題を明確にし、解決に向けた対策を積極的に考究する姿勢を求めます。				

授業科目	成人地域生活支援特論	時間割コード		90404	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	小谷 里砂				
授業目的・目標	<p>【目的】 成人を対象に、病院に留まらず、地域や在宅など対象の置かれている環境において、その人の望む健康の維持・増進、生活の確立のための援助を、エビデンスに基づき考察できる。</p> <p>【目標】 1)EBM・EBNについて説明できる。 2)実践事例を考察し、課題を明確にできる。 3)エビデンスを収集し、活用することができる。 4)健康の維持・増進、生活の確立のための援助について、自己の考えを述べるができる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 臨床判断能力の向上、セルフケア継続支援の確立などに焦点をあて、実践事例を用いて看護援助について考察し、明らかになった課題について、文献や先行研究をもとにエビデンスに基づいた看護援助を探究する。</p> <p>【授業計画】 第1講:ガイダンスおよびEBM・EBNとは 第2講:エビデンスの収集方法 第3講:エビデンスの評価と活用方法 第4・5講:各自の関心領域のエビデンスの収集と評価 第6講:エビデンスの活用例①:入院中の成人を対象としたエビデンスの活用 第7講:エビデンスの活用例②:地域や在宅で暮らす成人を対象としたエビデンスの活用 第8講:臨床判断モデルの概要と活用 第9-11講:実践事例の検討① ・理論などを用いた実践事例の考察と課題の明確化 ・課題解決のためのエビデンスの収集と評価 ・エビデンスに基づいた看護援助についてディスカッション 第12-14講:実践事例の検討② ・理論などを用いた実践事例の考察と課題の明確化 ・課題解決のためのエビデンスの収集と評価 ・エビデンスに基づいた看護援助についてディスカッション 第15講:健康の維持・増進、生活の確立のための援助についての学びの報告とまとめ</p>				
使用テキスト	特になし				
参考図書	適宜、配布および紹介する				
成績評価基準	プレゼンテーションの内容50% 学習態度(授業への参加態度、事前準備状況)50%				
学生へのメッセージ					



授業科目	高齢者地域生活支援特論	時間割コード		90405	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	井上 深幸				
授業目的・目標	<p>【目的】 高齢者の地域生活支援は、健康長寿への支援から認知症ケアまで幅広く、保健・医療・福祉の総合ケアとして進展していることを踏まえ、高齢者の生活の場・条件に応じた援助のための知識を教授し、住み慣れた地域で高齢者を支えるための看護実践のあり方と課題解決の方向性を探求する。</p> <p>【目標】 1) 高齢者の健康生活課題について理解することができる。 2) 高齢者の地域生活支援を支える保健医療福祉に関する制度・システムの現状と課題について理解することができる。 3) 高齢者の地域生活支援の課題解決の方向性について考究することができる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 地域ケアシステムにおける社会資源と支援方法について教授し、高齢者が疾患や障害をもちながら可能な限り住み慣れた地域で生活を送るための援助方法、ケア体制、ケア資源の課題について探求する。</p> <p>【授業計画】 第1講：現代社会とコミュニティケア 第2講：高齢者の健康生活課題① 第3講：高齢者の健康生活課題② 第4講：保健・医療・福祉ケアシステム① 第5講：保健・医療・福祉ケアシステム② 第6講：保健・医療・福祉ケアシステム③ 第7講：高齢者地域生活支援に関わる理論①－生態学理論 第8講：高齢者地域生活支援に関わる理論②－エンパワメント 第9講：高齢者地域生活支援に関わる理論③－ストレングス 第10講：高齢者地域生活支援に関わる理論④－ネットワーク 第11講：高齢者地域生活支援に関わる理論⑤－ケアマネジメント 第12講：コミュニティケアの創造と看護師の役割 第13講：高齢者の地域生活支援のための研究① 第14講：高齢者の地域生活支援のための研究② 第15講：高齢者の地域生活支援のための研究③</p>				
使用テキスト	指定なし				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	プレゼンテーション30% レポート70%				
学生へのメッセージ	高齢者の地域生活に関する今日的な課題について、授業中に議論できるよう新しい情報を収集しておきましょう。				

授業科目	公衆衛生看護実践特論	時間割コード		90406	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	三輪 眞知子・堀井 とよみ・高城 智圭				
授業目的・目標	<p>【目的】 公衆衛生看護の諸理論を看護実践に活かし、科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動が展開できる保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生看護の基盤となる諸理論を理解する。 2) 海外の文献を通して国際比較ができる。 3) 科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動の実際を探究できる。 4) 地域でヘルスプロモーションを進めるために必要な地域包括ケアシステム構築における公衆衛生看護の機能と役割について探究できる。 5) 公衆衛生看護活動や実習の展開中に芽生えた関心や問題を探究する。 				
授業概要・計画	<p>【授業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生看護の対象である個人、家族、集団の健康の保持増進と地域のヘルスプロモーションを推進する公衆衛生看護の基盤となる諸理論と活動を概説する。 2) 公衆衛生看護活動の国際比較を解説する。 3) 母子・成人・高齢者保健活動の科学的根拠となる看護研究の動向と研究に基づいた保健活動の実際について解説する。 4) 公衆衛生看護活動における政策形成プロセスの意義について考究する。 5) 公衆衛生看護活動や実習の展開中に芽生えた関心や問題を探究する。(オムニバス方式/全15回) <p>【授業計画】</p> <p>(三輪 眞知子/7回 第1講～6講、第15講)</p> <p>第1講: 公衆衛生看護の目的と基本理念 第2講: 公衆衛生看護実践と理論 第3講: 公衆衛生看護領域の研究と倫理 第4講: 個人の行動変容に関する研究と理論 第5講: 公衆衛生看護領域における家族支援に関する研究と理論 第6講: 公衆衛生看護に関する最近のトピックス</p> <p>(高城 智圭/3回 第7講～9講)</p> <p>第7講: 公衆衛生看護領域におけるグループ支援に関する研究と理論 第8講: 公衆衛生看護領域におけるコミュニティの組織化に関する研究と理論 第9講: 公衆衛生看護領域におけるソーシャルキャピタルと地域づくりに関する研究と理論 第10講: 事例検討会① (コミュニティの組織化プロセス)</p> <p>(堀井 とよみ/5回 第10講～14講)</p> <p>第11講: 地域におけるヘルスケアシステムづくりに関する研究と理論 第12講: 事例検討会② (地域におけるヘルスケアシステムづくりと地域マネジメント) 第13講: 公衆衛生看護領域における政策提言の意義と理論 第14講: 政策提言の実際 第15講: まとめ</p>				
使用テキスト	適宜指定する				
参考図書	適宜指定する				
成績評価基準	レポート 80% 事例検討参加 20%				
学生へのメッセージ					



授業科目	地域生活支援探究課題演習	時間割コード		90407	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	2(60)	選択 (領域必修)	1後
担当教員	山本 明弘 ・ 井上 深幸 ・ 堀井 とよみ ・ 三輪 眞知子 ・ 小島 賢子 ・ 高城 智圭 ・ 千葉 陽子 ・ 小谷 里砂				
授業目的 ・ 目標	【目的】 地域包括ケアシステムの進展の中で、地域生活支援探究に関する課題と展望を明確にするとともに、研究過程の演習を通して、基本的な研究展開方法を習得し、自己の研究に生かすことができる。 【目標】 1) 演習を通して、ディスカッションなど多角的な意見や助言、指導を得、課題に対する研究の展開方法を学修できる。 2) 得られた意見、助言、指導を自身の研究に有効に活用できる。				
授業概要 ・ 計画	【授業概要】 地域生活支援探究領域専攻の学生を支援する領域別演習であり、本領域を担当する全教員、同領域専攻の全学生の参加によって対話、発表、討論形式で進める。 学生の問題意識に基づき、国内外の論文のクリティーク、研究疑問の絞込み、研究計画を立案する基礎能力を養う。 (共同/全30回) 【授業計画】 第1～4講: 課題設定、文献レビュー、研究計画の検討 第5～8講: 研究計画書作成、修正 第9～14講: 課題に対する調査 第15～18講: 調査の実施 第19～22講: データの分析 第23～26講: 結果の考察 第27～28講: プレゼンテーション 第29～30講: まとめ、概要発表				
使用 テキスト	特に定めない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価 基準	発表資料60% プレゼンテーション力40%				
学生への メッセージ	研究過程を通して、主体的で能動的な学修参加を期待します。				

4. 地域生活支援探究領域 保健師コース



授業科目	公衆衛生看護学特論	時間割コード		90501	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択 (コース必修)	1前
担当教員	三輪 眞知子				
授業目的・目標	<p>【目的】 公衆衛生看護の基本理念、個人の行動変容、家族支援、コミュニティの変革と支援に関する概念、理論及び活動の方法論について理解を深め、公衆衛生看護実践およびその科学的根拠をもち探究力を養い、公衆衛生看護を担う保健師としてのアイデンティティを培う。</p> <p>【目標】 1) 公衆衛生看護の歴史、基本理念から保健師の役割が考察できる。 2) 個人及び家族のケア、コミュニティ(特定集団・地域)に関する理論的基盤、構成する概念を理解し有効に機能させるための支援方法について考察できる。 3) 1・2を踏まえて公衆衛生看護実践への適応可能性と課題、具体的方法の提案を論じることができ、さらに科学的根拠をもって探究する必要性について説明できる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 講義およびディスカッションを行う。また、家族を単位とした個人・家族のケア、コミュニティ(特定集団・地域)に関する概念・理論、方法論に関するプレゼンテーションと、それを踏まえた事例検討を行い理解を深める、実践への適用可能性と課題、効果的な具体的支援方法、今後の看護実践の方向性についてディスカッションを通して深め、科学的根拠をもった探究心を養う。</p> <p>【授業計画】 第1講: 公衆衛生看護の歴史-保健師の使命と役割の視点から- 第2講: 公衆衛生看護の基盤となる基本理念: 憲法25条、PHC、HP 第3講: 公衆衛生看護の基盤となる概念: 健康の社会的決定要因(健康格差と社会疫学、環境的要因) 第4講: 公衆衛生看護に関する最近のトピックと保健・医療・福祉・教育政策の動向 第5講: 個人の行動変容に関する理論: セルフケア理論、保健行動モデル等と支援方法 第6講: 個人の行動変容に関する支援方法: 事例展開 第7講: 家族支援に関する理論: 家族システム理論、家族発達論、家族生活力量モデル等 第8講: 家族支援方法: 事例展開 第9講: コミュニティの組織化に関する理論: コミュニティ・オーガニゼーション、コミュニティエンパワメント等 第10講: コミュニティの組織化に関する支援方法: 事例展開 第11講: 地域づくりに関する理論: ソーシャル・キャピタル 第12講: 地域づくりに関する支援方法: 事例展開 第13講: 公衆衛生看護実践とエビデンス概要 第14講: 公衆衛生看護実践とエビデンス: 母子保健とDoHAD 第15講: 公衆衛生看護実践とエビデンス: 健康生成論とSOC</p>				
使用テキスト	特になし				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・松本千明, 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎-生活習慣病を中心に-, 医歯薬出版, 2006. ・森晃爾編著, 保健指導スキルアップワークブック, 行動変容を促すプロをめざす人のために, 法研, 2005. ・家族ケア研究会, 家族生活力量モデル-アセスメントスケールの活用法-, 医学書院, 2010 ・思春期のストレス対処力SOC-親子・追跡調査と提言 ・久常節子・井伊久美子, 生活習慣病予防のためのグループ支援-習慣を変える、仲間と変える- ・近藤克則, 健康格差社会-何が心と健康を蝕むのか-, 医学書院, 2005. ・イチロー・カワウチ他, 不平等が健康を損なう, 日本評論社, 2004 ・ソーシャル・キャピタルと健康, イチロー・カワウチ他, ソーシャル・キャピタルと健康, 日本評論社, 2008. ・安梅勲江, エンパワメントのケア科学-当事者主体チームワーク・ケアの技法, 医歯薬出版, 2007. ・CBPR研究会, 地域に活かすCBPR-コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ, 医歯薬出版, 2010. ・中村裕美子他, 標準保健師講座2公衆衛生看護技術, 医学書院, 2016. 				
成績評価基準	プレゼンテーション資料・内容80% 授業への参加態度20%				
学生へのメッセージ	主体的な学習の取り組みが求められる。疑問や不明点はうやむやにしないで、調べて、考える習慣をつける。また、質問する場合は自分がどこまでわかり、どこからがわからないのかを明確にした上で質問の主旨を明確にしておくこと。				

授業科目	健康教育・地区組織育成特論	時間割コード		90502	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択 (コース必修)	1後
担当教員	滝澤 寛子				
授業目的・目標	<p>【目的】 健康教育の基本的知識、グループの特性を理解し、看護職が行う健康教育の意義と、ヘルスプロモーション推進に向けた健康教育・地区組織活動と看護職の役割について考究する。</p> <p>【目標】 1) 看護職が行う健康教育の目的、意義を説明できる。 2) 保健行動を促す教育的かわり重視する点を列挙できる。 3) 地域で展開する健康教育の企画、実施、評価の過程とその大事な視点を説明できる。 4) グループの特性、および、グループ活動の意義と支援者の役割を説明できる。 5) ヘルスプロモーション推進に向けた健康教育・地区組織活動と、看護職の役割について自分の考えを述べるができる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 健康教育の基本的知識を理解し、健康教育の目的、方法を学ぶ。行動変容の関連理論を理解するだけでなく、対象者のセルフケア能力を高める必要性を理解し、セルフケア能力の獲得を促す健康教育方法について学習する。また、グループを単位とする活動の特徴についても理解し、ヘルスプロモーション推進に向けた健康教育・地区組織活動と看護職の役割について考究する。</p> <p>【授業計画】 第1講: 健康の概念、健康教育の目的 第2講: 健康づくりに関する能力 第3講: 保健行動理論 第4講: グループの特性 第5講: 保健行動を促す保健指導 第6講: 健康教育の方法 第7講: 個人を対象とした健康教育の展開 第8講: 集団を対象とした健康教育の展開 第9講: 健康教育の評価 第10講: 健康教育指導案の作成(1)説明 第11講: 健康教育指導案の作成(2)グループワーク 第12講: 健康教育指導案の作成(3)発表・まとめ 第13講: 地区組織の育成: セルフヘルプ・グループ活動 第14講: 地区組織の育成: 地区住民組織と協働活動 第15講: まとめ: ヘルスプロモーションと健康教育・地区組織活動</p>				
使用テキスト	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術、中村裕美子他著、医学書院.				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	保健行動を促す保健指導に関する課題評価25% 健康教育の企画・評価に関する課題評価25% 課題レポート50%				
学生へのメッセージ	受講生の皆さんと学びあう姿勢を大切に授業を展開していきたいと思っていますので、主体的に授業に参加してください。				



授業科目	公衆衛生看護管理論	時間割コード		90503	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択 (コース必修)	1前集中
担当教員	三輪 眞知子 ・ 堀井 とよみ				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 公衆衛生看護管理の重要性を理解し、健康危機管理・人材育成等のリーダーシップが発揮できる統括保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 公衆衛生看護管理の意義と機能が理解できる。 2) 保健活動の質保証ができる能力を修得する。 3) 管理的保健師の役割を理解し、基本的視点を修得する。 4) 健康危機管理時の公衆衛生看護活動を理解し、平常時の活動ができる能力を修得する。</p>				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】 1) 公衆衛生看護管理について解説し、統括保健師としての機能や役割、人材育成、健康危機管理について理解できる。 2) 都道府県と市町村の公衆衛生看護管理の違いについて考え、具体的活動がイメージできる。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (三輪 眞知子/8回 第1講～5講、第10講、第12講、第15講) (堀井 とよみ /7回 第6講～9講、第11講、第13、14講)</p> <p>第1講: 公衆衛生看護管理とは 第2講: 公衆衛生看護管理の基本 第3講: 管理的ポストが担う公衆衛生看護管理 第4講: 都道府県における公衆衛生看護管理 第5講: 都道府県における健康危機管理 第6講: 市町村における公衆衛生看護管理 第7講: 市町村における健康危機管理 第8講: 保健師活動指針 第9講: 公衆衛生看護活動と統括保健師の役割 第10講: 都道府県における人材育成① 第11講: 市町村における人材育成② 第12講: ディスカッション① (テーマ: 都道府県における公衆衛生看護管理の実際) 第13講: ディスカッション② (テーマ: 市町村における公衆衛生看護管理の実際) 第14講: ディスカッション③ (テーマ: 都道府県と市町村の公衆衛生看護管理の違い) 第15講: 発表とレポート</p>				
使用テキスト	平野かよ子著『最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論』メヂカルフレンド社 井伊久美子他著『新版 保健師業務要覧 第4版』日本看護協会出版会				
参考図書	日本看護協会『保健師活動指針活用ガイド』				
成績評価基準	レポート80% ディスカッション20%				
学生へのメッセージ					

授業科目	学校保健論・産業保健論	時間割コード		90504	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択 (コース必修)	1後
担当教員	堀井 節子 ・ 中田 ゆかり				
授業目的・目標	<p>【目的】 (学校保健論) 学校保健・産業保健の理念と目的、制度とシステム、健康課題、基礎的な展開方法について理解する。 (産業保健論) 産業の場における人々の心身の健康問題を取り上げ、産業保健活動の基礎的な知識を習得し、産業保健と連携できる行政保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】 (学校保健論) 1) 学校保健の理念及び制度、児童生徒の健康課題、すべての教職員及び関係機関と連携した学校保健の推進を理解する。 (産業保健論) 1) 職場における、過重労働、メンタルヘルス、有害作業、生活習慣病などに対する支援方法を考究することができる。 2) 労働者個人・職場集団・事業所などの組織を対象として行われている保健指導、健康教育、環境改善、組織づくり等を理解できる。 3) 労働者および職場の情報を多角的に収集して支援ニーズを的確にアセスメントする職場判断について理解する。 4) 産業保健に関わる他機関他職種との連携、安全配慮義務、個人情報保護などの活動上の留意点について理解し、実践的な活動場面を考究することができる。 5) 地域保健と連携した包括的ヘルスケアシステムを考究することができる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 (学校保健論) 学校における保健活動の実際を教授し、児童生徒の健康問題について理解し、地域の行政とのつながりを理解する。学校保健と地域保健の連携等包括的ヘルスケアシステムについて教授する。 (産業保健論) 産業分野(企業等)における保健活動の実際を教授し、労働者の健康問題について理解し、地域の行政とのつながりを理解する。産業保健と地域保健の連携等包括的ヘルスケアシステムについて教授する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 学校保健論(堀井 節子/8回) 第1講: 学校保健の目的と内容、歴史 第2講: 学校保健行政と学校保健担当 第3講: 学校保健計画と保健教育と保健管理、保健組織活動 第4講: 学校安全計画と安全教育と安全管理、保健組織活動 第5講: 児童生徒の今日的な健康課題 第6講: 特別支援教育の現状と課題 第7講: すべての教職員及び地域の関係機関と連携した学校保健の推進 第8講: まとめ 産業保健論(中田 ゆかり/7回) 第9講: 産業保健とは・産業看護の理念と目的 第10講: 産業保健・産業看護の歴史と制度 第11講: 職場におけるメンタルヘルス対策及び過重労働による健康障害防止対策 第12講: 生活習慣病予防対策 第13講: 職業性疾病防止対策 第14講: 労働安全管理及び労働衛生マネジメントシステム 第15講: 産業保健活動と地域保健の連携</p>				
使用テキスト	テキストは使用しない、資料を配布する。興味がある学生は、参考図書を購入すると良い。				
参考図書	(学校保健論)①学校保健ハンドブック、教員養成系大学保健協議会編集、ぎょうせい、最新版 ②学校保健の動向、公益財団法人日本学校保健会編集、丸善出版、最新版 (産業保健論)労働衛生のしおり 平成28年度 中央労働災害防止委員会				
成績評価基準	学校保健論 試験100% 産業保健論 レポート70% 授業態度30%				
学生へのメッセージ	保健師免許取得後、日本国憲法・体育・外国語コミュニケーション・情報機器の操作の4科目各2単位(合計8単位)を履修している者は、教育委員会に申請して養護教諭二種免許状を取得できます。				



授業科目	公衆衛生看護活動特論 I	時間割コード		90505	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択 (コース必修)	1前
担当教員	高城 智圭				
授業目的・目標	<p>【目的】 公衆衛生看護の支援技術である家庭訪問、健康相談、保健指導、地域診断の目的、特徴、展開方法について理解する。 それぞれの支援技術の必要性、専門性を理解し、支援技術を展開する能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 公衆衛生看護の支援技術である家庭訪問、健康相談、保健指導の目的、特徴、展開方法について説明できる。 2) 保健師活動の基本となる家庭訪問の重要性について説明できる。 3) 支援技術の実践に必要な解剖・生理・病態学、発育・発達、フィジカルアセスメント、社会資源、地域特性、社会経済背景の知識を獲得する必要性と方法について説明できる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 公衆衛生看護の支援技術である家庭訪問、健康相談、保健指導の目的、特徴、理論、展開方法について学ぶ。 特に家庭訪問については保健師の基本技術とし、科学的根拠に基づく保健指導ができる知識を学ぶ。 また、個人・家族、集団、地域を捉える地域診断の目的、意義、活用理論、PDCAサイクル等、公衆衛生看護活動の展開を学ぶ。</p> <p>【授業計画】 第1講: 保健指導の目的、特徴、展開方法 第2講: 保健指導の科学的根拠に必要な情報収集 第3講: 保健指導の展開方法①ニーズアセスメントと計画立案 第4講: 保健指導の展開方法②実施と評価 第5講: 保健指導の面接技術 第6講: 家庭訪問の目的、意義、法的基盤 第7講: 家庭訪問の展開方法①ニーズアセスメントと計画立案 第8講: 家庭訪問の展開方法②実施と評価 第9講: 健康相談の目的、特徴 第10講: 健康相談の展開方法 第11講: 地域診断の目的、意義 第12講: 地域診断の活用理論 第13講: 個別課題から地域課題への展開 第14講: 地域診断の展開方法①情報収集とニーズアセスメント 第15講: 地域診断の展開方法②実施計画と評価</p>				
使用テキスト	村嶋幸代/最新保健学講座 公衆衛生看護支援技術/メディカルフレンド社				
参考図書	講義内でお伝えします。				
成績評価基準	試験80% レポート10%:ミニテストおよびミニレポート 平常点等10%:授業への積極的な取り組みの姿勢				
学生へのメッセージ	この科目で学ぶ内容は、保健師活動の基本的な支援技術になります。科学的根拠に基づいた思考ができるよう、一緒に学んでいきましょう。				

授業科目	公衆衛生看護活動特論Ⅱ	時間割コード		90506	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択 (コース必修)	1前
担当教員	三輪 真知子				
授業目的・目標	<p>【目的】 地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象としたライフステージ別、健康課題別保健活動および地域包括ケアシステム、健康危機時(災害時等)における保健活動について教授し、包括的な視野で保健活動を展開できる知識を修得する。</p> <p>【目標】 1) 地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象としたライフステージ別、健康課題別保健活動および地域ケアシステムについて成立のプロセス及び現状が説明できる。 2) 個から集団、地域、集団、地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、医療・福祉等其他機関、他職種のつながりについて理解できる。 3) 地域で生活するすべての対象を支援する地域包括ケアシステムのあり方を探究できる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 地域で生活する個人・家族、集団、地域を対象としたライフステージ別、健康課題別の保健活動および地域ケアシステムについてライフステージ別、健康課題別の特性と社会的背景、法、制度の歴史の変遷をふまえ理解する。保健活動において基本となる個から集団、地域、集団、地域から個の支援のつながり、各保健事業のつながり、多機関のつながりを理解し、包括的な視野で保健活動を展開できる知識を修得する。現状の地域ケアシステムの批判的吟味を通し、支援を求めない人々、制度の網目から抜け落ちる人々、複雑困難な健康問題を有する人々を支援する地域包括ケアシステムのあり方を探究する視点を養う。</p> <p>【授業計画】 第1講：ライフステージ別保健活動：母子保健活動①特性と社会的背景、法、制度の歴史の変遷 第2講：ライフステージ別保健活動：母子保健活動②母子保健統計と母子保健行政 第3講：ライフステージ別保健活動：母子保健活動③子どもの健やかな成長を守り育てる地域包括システムと地域づくり 第4講：ライフステージ別保健活動：母子保健活動④子ども虐待の実態とその予防 第5講：ライフステージ別保健活動：成人保健活動①特性と社会的背景、法、制度の歴史の変遷 第6講：ライフステージ別保健活動：成人保健活動②保健活動および地域包括ケアシステム 第7講：ライフステージ別保健活動：高齢者保健活動①特性と社会的背景、法、制度の歴史の変遷 第8講：ライフステージ別保健活動：高齢者保健活動②保健活動および地域包括ケアシステム 第9講：健康課題別保健活動：障害者・児保健活動、精神保健活動①特性と社会的背景、法、制度の歴史の変遷 第10講：健康課題別保健活動：障害者・児保健活動、精神保健活動②保健活動および地域包括ケアシステム 第11講：健康課題別保健活動：難病保健活動 特性と社会的背景、制度、法の歴史の変遷 第12講：健康課題別保健活動：難病保健活動と保健活動および地域包括ケアシステム 第13講：健康課題別保健活動：感染症保健活動①特性と社会的背景、法、制度の歴史の変遷 第14講：健康課題別保健活動：感染症保健活動②保健活動および地域包括ケアシステム 第15講：災害時の健康危機管理システム</p>				
使用テキスト	特になし				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・標美奈子他,標準保健師講座1公衆衛生看護学概論,医学書院,2015. ・中村裕美子他,標準保健師講座2公衆衛生看護技術活動,医学書院,2016. ・中谷芳美他,標準保健師講座3対象別公衆衛生看護活動,医学書院,2015. ・藤内修二他,保健師講座別巻1保健医療福祉行政論,医学書院,2017. ・牧本清子他,保健師講座別巻2疫学・保健統計,医学書院,2016. ・厚生労働統計協会編,国民衛生の動向,2017. ・ケヴィン・ブラウン他,子ども虐待予防「CAREプログラム」,明石書店,2012. ・村島幸代編,大槌町保健師による全戸家庭訪問と被災地復興-東日本大震災後の健康調査から見てきたこと-明石書店,2012. 				
成績評価基準	プレゼンテーション資料・内容80% 授業への参加態度20%				
学生へのメッセージ	<p>予習：居住する市町村の広報を入手し住民へ提供する健康情報を理解しておくこと。 家族や周囲の人々の健康情報の収集方法、健康行動についてインタビューしておくこと。 健康や健康政策に関する新聞記事に毎日目を通しておくこと。 復習：講義内容を復習し、ノートにまとめておくこと。</p>				



授業科目	公衆衛生看護活動演習 I	時間割コード		90507	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	2(60)	選択 (コース必修)	1前
担当教員	高城 智圭				
授業目的・目標	<p>【目的】 公衆衛生看護の支援技術である家庭訪問や健康相談について、科学的根拠に基づいた展開をし、支援技術を修得する。 地域住民のニーズと健康問題に気づくことができ、必要な支援について検討し、保健活動に必要な知識・態度を修得する。 個の抱える問題が地域全体の課題であると捉える能力を修得する。</p> <p>【目標】 1)公衆衛生看護の支援技術である家庭訪問、健康相談について事例を通して、科学的根拠に基づいた展開ができる。 2)事例を通して、予防的アプローチを行うための動機付けとなる面接技術を修得する。 3)対象が潜在的に抱える問題を聞き取るためのコミュニケーション能力を修得する。 4)事例を通し、支援を求めない人々、制度の網目から落ちる人、複雑困難な健康問題を有する人々を支援する方法を修得する。 5)個への支援事例を通して、個の抱える問題が地域全体の課題であると捉える能力を修得する。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 公衆衛生看護の支援技術である家庭訪問や健康相談について事例を通して、科学的根拠に基づいて展開し、支援計画を作成し、ロールプレイ等を通して支援技術を修得する。予防的アプローチを行うための動機付けとなる面接技術をロールプレイ等を取り入れ修得する。また、健康相談や乳幼児健康診査等で事例が潜在的に抱える問題を聞き取るためのコミュニケーション能力を修得する。さらに、個への支援を通して、個の抱える問題が地域全体の課題であると捉える能力を修得する。</p> <p>【授業計画】 第1・2講：家庭訪問の実際：ニーズアセスメントと家庭訪問計画の作成① 第3・4講：家庭訪問の実際：ニーズアセスメントと家庭訪問計画の作成② 第5・6講：家庭訪問の実際：実施 第7・8講：家庭訪問の実際：評価 第9・10講：保健指導の実際：ニーズアセスメントと保健指導計画の作成① 第11・12講：保健指導の実際：ニーズアセスメントと保健指導計画の作成② 第13・14講：保健指導の実際：実施 第15・16講：保健指導の実際：評価 第17・18講：母子保健活動の実際：乳幼児健康診査 第19・20講：母子保健活動の実際：乳幼児健康診査未受診者への支援 第21・22講：成人保健活動の実際：特定健康診査未受診者への支援 第23・24講：高齢者保健活動の実際：閉じこもり高齢者への支援 第25・26講：感染症保健活動の実際：結核の治療中断者への支援 第27・28講：精神保健活動の実際：統合失調症の治療中断者への支援 第29・30講：個別課題から地域の健康課題への展開</p>				
使用テキスト	村嶋幸代/最新保健学講座 公衆衛生看護支援技術/メディカルフレンド社				
参考図書	講義内でお伝えします。				
成績評価基準	試験50% 演習への積極的参加度、演習の課題到達度50%				
学生へのメッセージ	実際の事例を通して、保健活動に必要な支援技術をロールプレイ等により具体的に展開していきます。積極的な参加だけでなく、予習、復習をしっかりとすることでより学びが深まるといでしょう。				

授業科目	公衆衛生看護活動演習Ⅱ	時間割コード		90508	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	2(60)	選択 (コース必修)	1前
担当教員	三輪 眞知子				
授業目的・目標	<p>【目的】 健康問題に関連する地域の様々な情報を包括的に収集し、理論やPDCAサイクルをふまえて一連の地域診断の過程を展開できる能力を養う。科学的根拠のあるデータを基に健康課題を明らかにして支援計画が作成でき、説得力のある提示ができる能力を養う。</p> <p>【目標】 1)健康問題に関連する地域の様々な情報を包括的に収集できる。 2)理論やPDCAサイクルをふまえて一連の地域診断の過程の展開ができる。 3)科学的根拠のあるデータを基にして健康課題を明らかにし支援計画が作成でき、説得力のある提示ができる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 公衆衛生看護学実習Ⅰ、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲで出向く実習市を事例として、健康問題に関連する地域の様々な情報を包括的に収集するため、地区踏査、既存資料の活用、住民や関係者からのインタビューを用いて情報にアクセスし体得できるよう実践の場を設け、情報収集できる能力を養う。日常の保健活動からの情報収集と同様に、公衆衛生看護学実習Ⅰでの継続的な家庭訪問を行う中での気づきも情報ととらえすべての保健活動が地域診断につながることを理解する。理論やPDCAサイクルをふまえて一連の地域診断の過程を展開する。科学的根拠のあるデータを基に実習市の地区特性に応じて取り組むべき健康課題を明らかにして保健計画及び評価計画を作成させ、説得力のある提示ができる能力を修得する。</p> <p>【授業計画】 第1・2講：既存資料の情報収集と分析① 第3・4講：既存資料の情報収集と分析② 第5・6講：国民健康保険レセプトデータの情報収集 第7・8講：生活環境等のマップ作り(GIS活用) 第9・10講：保健医療福祉機関等のマップ作り(GIS活用) 第11・12講：地区視診・地区踏査 第13・14講：地域のキーパーソンへのインタビューによる情報収集とアセスメント 第15・16講：住民組織の会議への参加を通じた情報収集とアセスメント 第17・18講：地域の関係機関に出向いての情報収集とアセスメント 第19・20講：統計ソフトSPSS・エクセルを用いたデータ入力 第21・22講：統計ソフトSPSS・エクセルを用いたデータ分析 第23・24講：健康課題の抽出 第25・26講：保健計画・評価計画の作成 第27・28講：保健計画のプレゼンテーションの資料準備 第29・30講：保健計画のプレゼンテーションの実施と評価</p>				
使用テキスト	特になし				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準保健師講座1公衆衛生看護学概論,医学書院,2015. ・標準保健師講座2公衆衛生看護技術活動,,医学書院,2015. ・標準保健師講座3公衆衛生看護活動,医学書院,2015. ・エリザベスT.アンダーソン他編,コミュニティ・アズ・パートナーモデル,医学書院,2007. ・厚生労働統計協会,国民衛生の動向,2017. 				
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート：地区診断80% ・演習への積極的な取り組みの姿勢20% 				
学生へのメッセージ	<p>予習：演習に用いる資料を準備し、演習課題の案を作成しておくこと。 復習：演習後の記録、評価をしておくこと。</p>				



授業科目	保健統計学	時間割コード		90509	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択 (コース必修)	1後
担当教員	秋葉 澄伯				
授業目的・目標	<p>【目的】 公衆衛生看護活動に保健統計学が活用できる。</p> <p>【目標】 1) 公衆衛生看護における保健統計学の意義が理解できる。 2) 科学的思考を修得できる。 3) 看護実践に活用できる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 保健統計学の概念や用語について解説するとともに統計目的に応じた各種分析法について教授する。統計情報を活用して、公衆衛生看護活動の展開に必要な統計資料を作成する能力を修得する。</p> <p>【授業計画】 第1講: 代表値と度数分布 第2講: 平均値とその比較 第3講: 頻度の比較 第4講: 相関と回帰 第5講: データ解析入門①: 平均値の比較 第6講: データ解析入門②: 頻度の比較 第7講: データ解析入門③: 交絡、交互作用 第8講: 罹患率と有病率 第9講: データ解析入門③、罹患率の解析 第10講: 保健医療情報の収集方法、人口統計の基礎、既存資料・データベースの活用 第11講: メタ分析入門 第12講: 統計資料を用いたケーススタディ① 第13講: 統計資料を用いたケーススタディ② 第14講: 統計資料を用いたケーススタディ③ 第15講: 保健統計のまとめ</p>				
使用テキスト	配布資料				
参考図書	生物統計学入門—具体例による解説と演習 単行本 - 1995/8 石居進 (著)				
成績評価基準	レポート80% 講義参加度・プレゼンテーション20%				
学生へのメッセージ					

授業科目	疫学	時間割コード		90510	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択 (コース必修)	1後
担当教員	秋葉 澄伯				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 疫学の基本的事項を理解し、公衆衛生看護活動に活用できる。</p> <p>【目標】 1) 疫学における基本的概念と用語を理解できる。 2) 疫学研究の一連の流れを理解できる。 3) 公衆衛生看護活動の展開に活用できる能力を修得できる。</p>				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】 疫学の概念、公衆衛生学で疫学を駆使する意義、集団に起こっている健康問題について集団を対象にデータ収集し、その原因を追究する疫学的手法(疫学調査、分析、活用方法等)を理解する。また、疫学用語について解説するとともに公衆衛生看護活動の展開に活用できる能力を修得する。</p> <p>【授業計画】 第1講: 疫学とは・疫学の歴史 第2講: 疾病頻度の測定と疾病登録、既存データの活用及び疫学の臨床応用 第3講: 誤差と偏り 第4講: リスクの指標と交絡 第5講: 因果関係 第6講: 研究デザイン①、スクリーニングとサーベランス 第7講: 研究デザイン②、分析疫学的研究 第8講: 疫学統計の事例① 第9講: 調査の実施方法と研究結果のまとめ方 第10講: 疫学統計の事例② 第11講: 疫学研究と倫理 第12講: 疫学統計の事例③ 第13講: 研究のデザインとリスクの指標と交絡(まとめ) 第14講: 疫学統計の事例④ 第15講: 研究結果の評価、メタ分析</p>				
使用 テキスト	日本疫学会監修、田中平三・秋葉澄伯 『初めて学ぶやさしい疫学 改訂第2版』				
参考図書	南江堂 『国民衛生の動向 2017/2018』、篠原出版新社『ロスマンの疫学 第2版』				
成績評価 基準	レポート80% 講義参加度・プレゼンテーション20%				
学生への メッセージ					



授業科目	保健医療福祉行政システム論	時間割コード		90511	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択 (コース必修)	1前
担当教員	三輪 眞知子 ・ 堀井 とよみ ・ 高城 智圭				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 地域の人々に必要な保健医療福祉政策が提言できる保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 我が国の保健医療福祉政策の現状と課題及び行政システムを理解する。 2) 諸外国の保健医療福祉政策を理解する。 3) 都道府県の保健福祉医療政策の現状と課題及び行政システムを理解する。 4) 市町村の保健福祉医療政策の現状と課題及び行政システムを理解する。 5) 保健福祉医療政策と公衆衛生看護活動との関連を理解する。 				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国・都道府県・市町村の保健・医療・福祉政策及びその政策を進める行政システムについて解説し課題について考察できる。 2) 計画策定や政策提言の仕組みについて教授し、公衆衛生看護活動における政策の重要性が理解できる。 (オムニバス方式/全15回) <p>【授業計画】</p> <p>(三輪 眞知子/5回 第1講～5講)</p> <p>第1講: 我が国の保健医療福祉政策の現状 第2講: 諸外国の保健医療福祉政策について 第3講: 都道府県に得られる保健医療福祉政策の現状 第4講: 国・都道府県の行政システム 第5講: グループディスカッションと発表 (テーマ: 我が国の保健医療福祉政策の課題)</p> <p>(高城 智圭/5回 第6講～10講)</p> <p>第6講: 政令市における保健医療福祉政策の現状 第7講: 政令市の行政システム 第8講: 保健医療福祉計画の策定 第9講: グループディスカッション (テーマ: 国・都道府県・政令市の保健医療福祉政策の課題解決方法) 第10講: 発表</p> <p>(堀井 とよみ/5回 第11講～15講)</p> <p>第11講: 市町村の保健医療福祉政策の現状 第12講: 市町村の行政システム 第13講: グループディスカッション (テーマ: 市町村の保健医療福祉政策の課題と解決方法) 第14講: 発表 第15講: まとめ</p>				
使用 テキスト	藤内修二他著 『標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論』 医学書院				
参考図書					
成績評価 基準	レポート80% グループディスカッション参加20%				
学生への メッセージ					

授業科目	保健医療福祉行政システム論演習	時間割コード		90512	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	1(30)	選択 (コース必修)	1後
担当教員	三輪 眞知子・堀井 とよみ・高城 智圭				
授業目的・目標	<p>【目的】 地域の人々に必要な保健医療福祉政策が提言できる保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例に保健行政システム及び地域の健康課題と行政の取り組みを理解する。 2) 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例に医療行政システム及び地域の医療課題と行政の取り組みを理解する。 3) 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例に福祉行政システム及び地域の福祉課題と行政の取り組みを理解する。 4) 公衆衛生看護学実習Ⅲの実習施設における地域包括ケアシステムの課題を抽出し、システム構築のための政策提言ができる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 1) 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例として、行政に関する情報を収集し、行政システムを理解する。 2) 行政システムの課題に気づくとともに地域住民にとって必要な保健医療福祉政策が提供されるような解決策を探究する。 3) 地域住民の保健医療福祉の課題解決のための地域包括ケアシステムを考究し、必要な政策提言を模擬実施する。 (オムニバス形式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (三輪 眞知子/4回 第1講～4講) 第1講: 公衆衛生看護学実習Ⅲの実習施設の行政機構 第2講: 実習施設の保健福祉担当者からの聞き取り 第3講: 実習施設の保健福祉担当者からの聞き取り 第4講: グループディスカッション① (テーマ: 保健福祉行政システムの課題抽出) (高城 智圭/4回 第5講～8講) 第5講: 実習施設の所在地に開設する病院・訪問看護ステーション等の関係者から聞き取り 第6講: 医療関係者の意見と行政担当者からの聞き取り 第7講: グループディスカッション② (テーマ: 医療行政システムの課題抽出) 第8講: 発表 (堀井 とよみ/7回 第9講～15講) 第9講: 実習施設における地域包括ケアシステムと行政の考え方 第10講: 保健医療福祉行政システムの課題の統合化及び地域の保健課題の解決策 第11講: グループディスカッション③ (テーマ: 課題解決のための地域包括ケアシステムと行政の役割) 第12講: グループディスカッション④ (テーマ: 課題解決のための地域包括ケアシステムと行政の役割) 第13講: 政策提言書作成① 第14講: 政策提言書作成② 第15講: 模擬政策提言及びまとめ</p>				
使用テキスト	藤内修二他著『標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論』医学書院				
参考図書	真山達志『政策形成の本質』成文堂				
成績評価基準	レポート(政策提言書を含む)80% グループディスカッション参加20%				
学生へのメッセージ					



授業科目	公衆衛生看護学実習 I	時間割コード		90513	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	1(45)	選択 (コース必修)	1通
担当教員	高城 智圭 ・ 堀井 とよみ				
授業目的・目標	<p>【目的】 継続家庭訪問を行う中で、「個人、家族、集団への支援」を学び、高齢者及び高齢者を取り巻く家族1事例に対して、個人・家族を単位として継続支援する。対象と人間関係を構築できる対人関係能力を養うとともに、自立心と判断力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 対象者の健康状態や家族の状況、地域での生活、社会資源を理解し、地域での健康な生活を支援する意義を考えることができる。 2) 対象者と関係を構築できる対人関係能力を養うとともに個人、家族、集団に対する支援力が修得できる。 3) 個人、家族、集団の抱える問題を地域全体の課題として捉えることができる能力が修得できる 4) 個人、家族、集団、地域の潜在的な健康課題を明確化して解決することができるよう公衆衛生を担う専門職である保健師としての倫理観や感受性、責任感を身につけることができる。 5) 最新の知識・技術を自ら学び続ける学究的態度を身につけ、実習先の資料収集を行い、実習により生じた疑問等を特別研究において探究することができる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 1) 臨地実習 2) 学内での事前準備学習(課題学習等) (共同)</p> <p>【授業計画】 【 7月 】 ・実習前オリエンテーション ・家庭訪問前のサービス担当者会議開催 【 7月～12月 】 1) 家庭訪問前の指導保健師、担当保健師、教員参加の事例調整会議を開催 2) 高齢者1例に対して家庭訪問を開始し、個別支援及び家族支援を実施 3) 事例検討後必要なケアマネジメントと必要な社会資源の立案を実施 4) 家庭訪問後指導保健師、担当保健師、教員が参加して事例検討を実施 5) 必要なサービスの実施(健康教育、健康相談、地区組織等と調整し、必要時集団に対する支援を実施) ・毎月1回～2回訪問 【 1月～2月 】 ・訪問後の全体まとめ ・事例研究報告会の開催 (報告会参加者は指導保健師、担当保健師、教員等) ・レポート作成</p>				
使用テキスト	保健師コース科目で使用したすべてのテキスト				
参考図書	保健師コース科目で使用したすべての参考図書				
成績評価基準	出席状況10% 事前学習10% 実習態度15% 事業等の参加状況15% 実習記録15% カンファレンス参加状況15% 家庭訪問のまとめ20%				
学生へのメッセージ					

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ-a	時間割コード		90514	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	4(180)	選択 (コース必修)	1前
担当教員	三輪 真知子 ・ 高城 智圭				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 「個人、家族、集団への支援」を深めるとともに、都市型地域における「公衆衛生看護活動展開論」及び「公衆衛生看護管理論」を学び、「個人、家族、集団、地域の複雑化潜在化している健康問題へ対応できる保健師」、「地域の健康課題を解決する方策を探求し、施策の企画、立案、実施及び評価等のPDCAサイクルによる公衆衛生看護管理が展開できる保健師」の能力を修得する。</p> <p>【目標】 1)個人、家族、集団、地域の健康の保持増進への公衆衛生看護活動を理解し、科学的かつ論理的思考に基づき、理論を活用した公衆衛生看護活動の実践能力を修得できる。 2)実習地域の個人、家族、集団、地域の健康課題の解決に向け、地域住民、保健・医療・福祉・教育の関係機関と連携協働しながら、公衆衛生看護活動が展開できる能力を修得できる。 3)個人、家族、集団、地域の健康の保持増進のための公衆衛生看護活動の質を保証する機能として統括保健師の役割を理解し、探究できる。 4)健康危機管理の実際を理解し、平常時に必要な知識・態度を身につけることができる。 5)保健所及び市町保健センターの機能及び所属する行政保健師としての役割について理解し、具体的活動を修得できる。 6)個人、家族、集団、地域の潜在的な健康課題を明確化して解決することができるよう公衆衛生を担う専門職である保健師としての倫理観や感受性、責任感を身につけることができる。 7)最新の知識・技術を自ら学び続ける学究的態度を身につけ、実習先の資料収集を行い、実習により生じた疑問等を特別研究において探究できる。</p>				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】 1)臨地実習 2)学内での事前準備学習(課題学習等) (共同)</p> <p>【授業計画】 【第1週】 ・学内オリエンテーション ・学内で実習計画の最終調整 ・京都市保健所において実習 (オリエンテーション、保健福祉医療行政についてオリエンテーション) ・保健所事業の実習(特殊健診・相談・保健所他課との連携・他機関との連携等)</p> <p>【第2週 第3週】 ・保健所実習のまとめ ・区保健センターにおいてオリエンテーション ・保健センター事業の実習 (健診、健康相談、健康教育、家庭訪問、他機関連携、地区組織育成等) ・中間カンファレンス ・保健センター実習のまとめ</p> <p>【第4週】 ・政令市における統括保健師の業務(公衆衛生看護管理)についてオリエンテーション (健康危機管理を含む) ・統括保健師にシャドウイング ・統括保健師と意見交換及び実習のまとめ ・学内 1)保健所・保健センターの機能と役割及び所属する保健師の役割について意見交換 2)統括保健師について意見交換 3)実習全体のまとめと報告会 面接</p>				
使用 テキスト	保健師コース科目で使用したすべてのテキスト				
参考図書	保健師コース科目で使用したすべての参考図書				
成績評価 基準	出席状況10% 事前学習10% 実習態度15% 事業等の参加状況15% 実習記録15% カンファレンス参加状況15% 地域診断のまとめ 20%				
学生への メッセージ					



授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ-b	時間割コード		90515	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	2(90)	選択 (コース必修)	2前
担当教員	堀井 とよみ ・ 高城 智圭				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 「個人、家族、集団への支援」を深めるとともに、都市型地域における「公衆衛生看護活動展開論」及び「公衆衛生看護管理論」を学び、「個人、家族、集団、地域の複雑化潜在化している健康問題へ対応できる保健師」、「地域の健康課題を解決する方策を探求し、施策の企画、立案、実施及び評価等のPDCAサイクルによる公衆衛生看護管理が展開できる保健師」の能力を修得する。</p> <p>【目標】 1)個人、家族、集団、地域の健康の保持増進への公衆衛生看護活動を理解し、科学的かつ論理的思考に基づき、理論を活用した公衆衛生看護活動の実践能力を修得できる。 2)実習地域の個人、家族、集団、地域の健康課題の解決に向け、地域住民、保健・医療・福祉・教育の関係機関と連携協働しながら、公衆衛生看護活動が展開できる能力を修得できる。 3)個人、家族、集団、地域の健康の保持増進のための公衆衛生看護活動の質を保証する機能として統括保健師の役割を理解し、探究できる。 4)健康危機管理の実際を理解し、平常時に必要な知識・態度を身につけることができる。 5)保健所及び市町保健センターの機能及び所属する行政保健師としての役割について理解し、具体的活動を修得できる。 6)個人、家族、集団、地域の潜在的な健康課題を明確化して解決することができるよう公衆衛生を担う専門職である保健師としての倫理観や感受性、責任感を身につけることができる。 7)最新の知識・技術を自ら学び続ける学術的態度を身につけ、実習先の資料収集を行い、実習により生じた疑問等を特別研究において探究できる。</p>				
授業概要 ・ 計画	<p>【授業概要】 1)臨地実習 2)学内での事前準備学習(課題学習等) (共同)</p> <p>【授業計画】 【実習前の週】 ・学内オリエンテーション 準備学習</p> <p>【第1週 第2週】 ・四万十市及び市健康管理センターについてオリエンテーション ・担当地域の地域診断結果報告 ・市健康管理センター事業(健診、健康相談、健康教育、集団指導、個別訪問、他機関連携、地区組織育成活動等)実習、・特に、家庭訪問実習で乳幼児訪問が経験できなかった場合は、四万十市において最低2回の継続訪問を実習 ・特定保健指導の住民を担当し、関連機関への連絡調整等を通して、個が抱える問題が地域の問題であることを実習 ・地区踏査 ・当該地域の地域診断に不足している情報収集活動 ・地区組織活動の実際を実習 地区組織リーダーとの人間関係づくりの実習 ・中間カンファレンス ・市の統括保健師の業務(公衆衛生看護管理)についてオリエンテーション(当該地域の特性に合わせた健康危機管理の説明を含む) 統括保健師にシャドウイング ・地区踏査・事業等を通して収集した情報を追加した地域診断を実施し課題を抽出、その後課題解決のためのヘルスケアシステムについて検討 ・保健センター実習のまとめ・報告会</p> <p>【実習終了後の週】 ・市健康管理センターの機能と役割及び所属する保健師の役割について意見交換 ・実習全体のまとめと報告会 面接</p>				
使用 テキスト	保健師コース科目で使用したすべてのテキスト				
参考図書	保健師コース科目で使用したすべての参考図書				
成績評価 基準	出席状況10% 事前学習10% 実習態度15% 事業等の参加状況15% 実習記録15% カンファレンス参加状況15% 地域診断のまとめ 20%				
学生への メッセージ					

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅲ	時間割コード		90516	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	3(135)	選択 (コース必修)	2前
担当教員	三輪 眞知子・堀井 とよみ・高城 智圭				
授業目的・目標	<p>【目的】 各種保健医療福祉計画に基づく施策化、ネットワーキング等の公衆衛生看護活動展開の技術を用いて政策提言における保健師の役割を学ぶとともに、実習先の保健師と協働して、地域包括ケアシステムを構築し、推進できる能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 行政の保健福祉医療計画に基づく施策化及び保健師の役割、関係機関との連携・協働の実際を通して、地域マネジメントが実践できる能力を修得できる。 2) 実習先市町の既存の地域包括ケアシステムの課題を学び、全世代を通して地域包括ケアシステム構築における保健師の役割を理解、探究することができる。また、実習先市町の特性をふまえた新たな地域包括ケアシステムを政策提言し、実習先保健師と協働して実践する能力を修得できる。 3) 個人、家族、集団、地域の潜在的な健康課題を明確化して解決することができるよう公衆衛生を担う専門職である保健師としての倫理観や感受性、責任感を身につけることができる。 4) 最新の知識・技術を自ら学び続ける学究的態度を身につけ、実習と関連づけて特別研究において研究課題を探究できる。</p>				
授業概要・計画	<p>【授業概要】 1) 臨地実習 2) 学内での事前準備学習(課題学習等) (共同)</p> <p>【授業計画】 【第1週】 ・学内オリエンテーション 準備学習 ・長浜市オリエンテーション ・地域包括ケアシステムの現状を地区踏査 ・関係職種機関からの聞き取り ・長浜市の地域包括ケアシステムの課題抽出 ・実習指導者とカンファレンス</p> <p>【第2週】 ・長浜市において政策提言(健康福祉部長) (保健医療福祉行政システム論演習で作成した内容を修正) ・地域包括ケアシステムの課題解決に向けた具体的な支援活動について企画・立案 ・学内中間カンファレンス ・具体的支援活動に向けて、地区担当保健師から現状についてオリエンテーション ・地区担当保健師と共に関係機関へのあいさつ 以後は地区担当保健師了解のもと、関係機関・者に単独で連絡・調整、その後地区担当保健師への報告</p> <p>【第3週】 ・地区担当保健師了解のもと、関係機関・者に単独で連絡・調整、その後地区担当保健師への報告 ・地区担当保健師へ具体的支援活動の進捗状況を報告・今後の支援方向を検討の後引継ぎ ・実習施設において、実習報告会</p>				
使用テキスト	保健師コース科目で使用したすべてのテキスト				
参考図書	保健師コース科目で使用したすべての参考図書				
成績評価基準	出席状況10% 事前学習10% 実習態度15% 事業等の参加状況15% 実習記録15% カンファレンス参加状況 15% 政策提言20%				
学生へのメッセージ					